

1137 認定 NPO 法人マギーズ東京 マギーズ東京

【キーワード】

〔施設種別〕 高齢者施設 障がい者施設 子ども施設 住宅 コミュニティ拠点
〔運営主体〕 市区町村 法人 NPO 個人 〔補助金〕 内閣府 国土交通省 厚生労働省
〔建物形式〕 1棟単体型 複数棟集合型 団地型 〔建物状況〕 新築 増築 改修 一部改修 既存
〔対象者〕 高齢者 障がい者 子ども ファミリー 多世代



写真1. 外観写真

がんの当事者及びその家族や友人など、がんに影響を受けるすべての人が、とまどいがある時や孤独な時などに気軽に訪れ、看護師や心理士などと話ができる場。英国のマギーズセンターの初の日本版である。自分の力を取り戻すためのサポートやグループプログラムが行われており、来訪者は、第二の我が家のような空間で、海風を感じながら、自由にお茶を飲み、ゆったりとくつろげる。

■施設概要

所在地：東京都江東区豊洲 6-4-18

施設種別：相談支援センター

運営主体：認定 NPO 法人マギーズ東京

設計総合監修：阿部勤

設計総合プロデュース：佐藤由巳子

本館設計：株式会社コスモスモア

アネックス館設計：日建設計（勝矢武之、平井雄基）

敷地面積：701.49m²

延床面積：本館…122.75m²、アネックス館…62.10m²

構造・階数：本館…S造プレハブ、アネックス館…木造

運営開始：平成28年10月10日

開所時間：月～金の平日、10時～16時まで（土日・祝日はイベント時のみオープン）ナイトマギーズ（夜間オープン）毎月原則、第1、第3金曜18時～20時

◆インタビューでお話を伺った方：

- ・秋山正子氏（マギーズ東京 センター長、認定 NPO 法人マギーズ東京 共同代表理事、訪問看護師・保健師、助産師、(株) ケアーズ代表取締役・



図1. 敷地周辺

ゆりかもめ「市場前」駅から徒歩5分
東京駅丸ノ内南口からバスで「都05-2 東京ビッグサイト」行き約30分、バス停「新豊洲駅前」下車。



写真2. 敷地近くの水辺の景色

マギーズ東京からランニングロードをはさみ、晴海運河が見え、利用者は海風を感じ、癒される。

白十字訪問看護ステーション統括所長、特定非営利活動法人白十字在宅ボランティアの会理事長、暮らしの保健室室長、第22期東京都社会福祉審議会委員、順天堂医療看護学研究科大学院非常勤講師)

- ・佐藤由巳子氏（認定NPO法人マギーズ東京 建築環境担当、建築・アートコーディネーター、有限会社佐藤由巳子プランニングオフィス）
- ・岩城典子氏（認定NPO法人マギーズ東京 常勤看護師・保健師）

訪問者：山田あすか、村川真紀、原田豪、米ヶ田里奈、正能健太

訪問日：2021年4月28日16:00～19:00

■マギーズ東京とは

マギーズ東京は、「がんに影響を受けた人」が、気軽に訪れて、がんに詳しい看護師や心理士などへの相談や、自分の時間を過ごせる場であり、日本のこれまでの医療関連施設とは異なるコンセプトで運営している。本館内は化粧材に木材が使用

されており、木の香りが漂う明るい空間が設えられている。敷地は東京都江東区豊洲にある。周辺は平日日中は訪れる人もまばらであるが晴海運河沿いを散歩する人々などの適度な人通りがあり、来訪者は海風を感じながら、サポートを受けられる。また、夜や休日には周辺の劇場や体育施設、屋外に広い飲食スペースをもつカフェバーなどは老若男女で賑わう。

マギーズ東京では、さまざまなグループプログラムも開催している。これらのプログラムを含む、センターの運営は大勢の方のチャリティ（寄付や協力）で行われており、来訪者は無料で利用できる。

■設立経緯

認定NPO法人マギーズ東京は、秋山正子氏と鈴木美穂氏による共同代表制で設立された。

1) 秋山正子氏の設立に至る経緯

共同代表である秋山正子氏は、1992年から訪問看護師として、がんの当事者の在宅療養のサポートも行ってきた。当時のがんの医療体制は、



写真3. マギーズ東京 入り口からの景色

建築のエントランス部分を中庭の奥まで引き込むことで、敷地全体を広く見せている。また、副次的効果として、来訪者はエントランスにたどり着くまでの間に、中庭の自然を感じたり、建物内部の様子がわかるので、心理的なハードルが下がる。

闘病したものの積極的治療フェーズを終えられた方や、ステージや予後の見通しから積極的治療を選ばない方は、緩和ケアを中心に受けながら、悩みや不安を抱えたまま在宅での療養生活を送っていた。また、がんを患っている方・経験者（がんの当事者）である本人を支える家族などへのサポートや相談先の必要性も十分には認識されていなかった。秋山氏は、がんの当事者や家族・友人など、「がんに影響を受ける人」たちの治療以外の相談の場が、十分に整備されていない状況を改善したいと感じていた¹。

秋山氏は2008年11月に国際がん看護セミナーに登壇し、「マギーズ エジンバラ」のセンター長であるアンドリュー・アンダーソン氏と出会い、マギーズセンターを知った。その後、友人の佐藤由巳子氏（現マギーズ東京建築環境担当、有限会社佐藤由巳子プランニングオフィス）と共に2009年2月にイギリスのマギーズセンターを訪問し、建築と庭を含めた環境が、「がんに影響を

受けた人」に対して癒しの空間を提供していること、無料で予約不要であることを知り、日本での設立の必要性を感じた。

秋山氏は、日本でマギーズセンターの考えを浸透させるため、2011年に「暮らしの保健室」を設立した。「暮らしの保健室」は、敷居の低い環境で、がんだけでなく広く健康相談や介護・福祉関連の相談ができ、誰でも予約なしに利用できる「マギーズセンターのような空間」である。

2) 鈴木美穂氏の設立に至る経緯

マギーズ東京共同代表の鈴木美穂氏は、2014年「暮らしの保健室」を訪問した。鈴木氏は、元々日本テレビの記者で24歳で乳がんを患い、自身のがん経験をきっかけに若年性がん患者団体「STAND UP!」を設立し、がんと闘う方々の声を届けるフリーペーパーを発行していた。

また、鈴木氏は、がんの当事者と家族が、病院以外でゆったりと過ごせる場があればという思いをもっており、2014年にウィーンで開催された、



図2. マギーズ東京の周辺にあるがん拠点病院（Google map より引用）

マギーズ東京の周辺には、国立がん研究センター中央病院、聖路加国際病院、がん研有明病院、東京慈恵会医科大学附属病院、虎の門病院の5つのがん拠点病院があり、病院で診療を受けた後にマギーズ東京を利用する方もいる。また、病院のがん相談窓口にもマギーズ東京のパンフレットを配るなどの連携をとっている。

患者コミュニティ団体の代表者が集まる「IEEPO (International Experience Exchange for Patient Organizations)」に参加し、そこでマギーズセンターを知った。「IEEPO」の後、日本でマギーズセンターについて調べる中で、秋山正子氏の活動を知った²。

3) 秋山氏と鈴木氏のチームの協力について

2014年に、「暮らしの保健室」に鈴木氏が訪問し、秋山氏のつながりの医療や建築関係者と鈴木氏の若く行動力のある仲間が協力してNPO法人を立ち上げ、日本初となるマギーズセンター「マギーズ東京」の発足に至った。

■敷地選定の経緯

英国のマギーズセンターは、医療との連携が重視されることや病院の社会貢献の一環としての位置づけなどの要素により、病院の敷地内に建設されていた。秋山氏らは、敷地選定にあたって、東

京都内のがん専門病院の敷地内などに建設することを検討したが、いずれも元々建蔽率上限まで敷地を利用して病院が建設されているなどで余剰面積がなく、スペースの確保が難しかった。

敷地を探すなかで、鈴木氏の友人である三井不動産レジデンシャルの方が仲介役となり、東京ガス用地開発株式会社（当時）が所有していた敷地を紹介され、三井不動産レジデンシャルの支援により貸借契約を締結し使用している。

三井不動産レジデンシャルでは、湾岸エリアの魅力と価値を高め、住民の暮らし心地をより良くする東京湾岸エリア活性化プロジェクト「WANGAN ACTION」を発足させている³。三井不動産レジデンシャルの豊洲地域活性化プロジェクトの考えと、秋山氏・鈴木氏らの日本でのマギーズセンター発足の意思が一致し、賃貸契約が締結された。マギーズ東京の敷地は、2020年までの期限付きでの賃貸契約だったが、2022年まで延長されている。



図3. 敷地周辺の詳細 (Google map より引用)

マギーズ東京は、建築基準法上、入り口と反対側の裏道を公道までつなげ、敷地全体としている。また、入り口前の私道沿いには、「マギーズガーデン」が設置されており、「花畑活動」で使用される。

結果的に現在の立地は、どの病院にも所属しないことで、来訪者が治療を受けている病院に関わりなく利用できる場所となった。通院先からマギーズ東京までの移動が気分転換や気持ちの整理の時間として働くという声もある。マギーズ東京は、病院から一定の距離を置いて、がんに影響を受けた人のサポートを地域で展開する新たな形態である。

■敷地について

広域でみた敷地周辺には、がん研有明病院やがん拠点病院があり、各病院のがん相談窓口にもマギーズ東京のパンフレットを提供している。また、水辺に近いので、敷地周辺はイベント等のない時間帯には落ち着いた環境である⁴。

敷地は、建築基準法への対応として公道に接続させるため、入り口と反対側の細い道全体を敷地としている。このため数字上の敷地面積よりも、実際に使えている面積は狭い。マギーズ東京のメイン入口側の私道緑地部分の一部は、「マギーズガーデン」として利用されており、四季折々の花



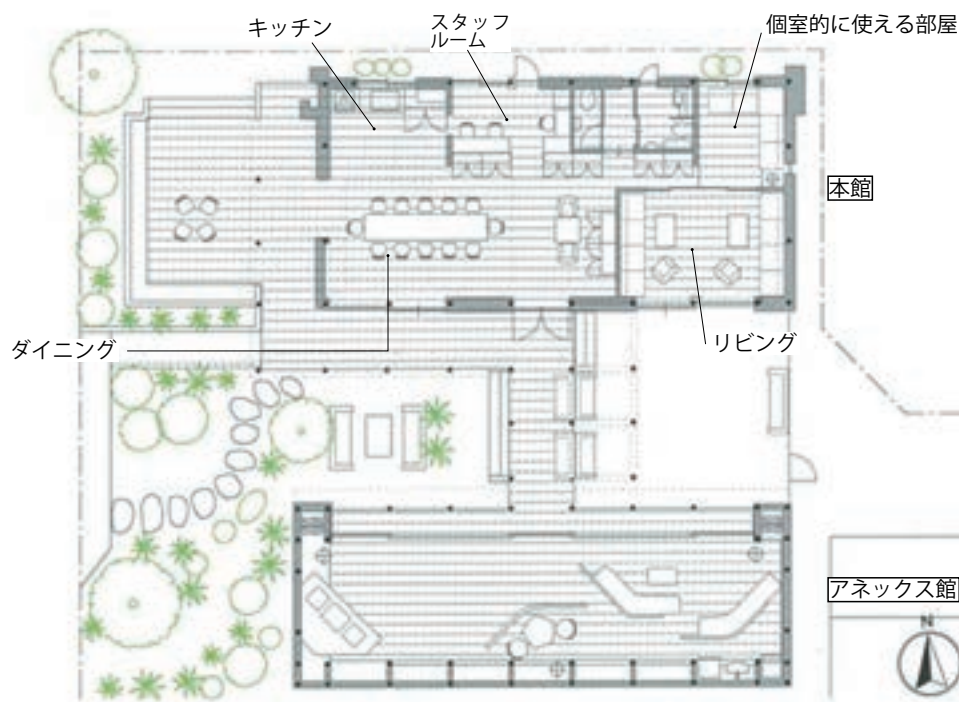
写真4. 花畑活動で使用する「マギーズガーデン」

「マギーズガーデン」は、敷地前の私道沿いにあり「花畑活動」で使用される。花畑活動で植えた花が育ち、地域住民や来訪者が、花摘みを楽しめる。



写真5. ダイニング全体の内観

木の色を基調とし、柳宗理氏デザインのライトなどで、温かい空間を設けている。



※室名は本文・写真との対応のための名称であり、正式なものではない

写真6. マギーズ東京の平面図 (MAGGIE's CENTERS ARCHITECTURE マギーズセンターの建築と庭 — 本来の自分を取り戻す居場所— から引用, 室名を追記)

平面計画は、建築に庭を取り込む設計に配慮しており、館内においても自然や海風を感じられる。



写真7. 本館のダイニングから見たリビング

腰壁を用い、スタッフは、奥の部屋にいても来訪者の様子がわかるように配慮されている。



写真8. アネックス館の家具（中央の机と奥のソファ）

日建設計が木材会館の展示用として造り、展示終了後、廃棄されるものをマギーズ東京が再利用した。可動式でグループプログラムを行う際に自由に動かす。



写真9. アネックス館から見た中庭の景色

日建設計が設計した木のギャラリー（パビリオン）を、アネックス館に転用している。中庭に面して全面ガラス張りで、自然を感じられる。また、中庭の先には水辺の景色が広がっており、景観を楽しむ。

でこの緑地を満たす「花畑活動」が行われている。なお、この敷地は先述の「WANGAN ACTION」では、将来的に再開発される予定で、敷地前の私道沿いには駅方向につながる軸線上に桜並木が配置されている。

■マギーズ東京の建築について

1) 建築概要

本館とアネックス館で設計者が異なる。本館は、前述の「WANGAN ACTION」を担当したコスモスモア設計の設計施工によるS造プレハブの構造に木材を張ったもので、アネックス棟は日建設計による「木のギャラリー（パビリオン）」を転用したものである。これらを建築家・阿部勤氏が中庭を囲むようにレイアウトした。

■本館

本館の建築費用は、数度のクラウドファンディング（初回は約2200万円）などによる寄付金で建てられた。

設計者のコスモスモアはプレハブを専門とする建設会社であり、この建物はスチールを使用した

構造で設計された。また化粧材は、アネックス館と同じ木材で設えられ、一体感のある雰囲気醸し出している。メイン入口を入り左側に大きなテーブルが配され集まる場にもなるダイニングとオープンキッチン、奥にはリビング様のソファの置かれた空間や、小規模な室が配置され、コミュニケーションの場と一人になれる空間を限られた面積で両立させている。

スタッフが、来訪者の様子がわかるように仕切りの壁は腰の高さまでが木で、上部にはガラスを入れている。この腰壁の高さは、マギーズ東京のセンター長である秋山氏が立った際に、視線が通る高さに設定されている（写真7）。

■アネックス館

アネックス館は、建築環境担当の佐藤氏の知人である東京木材問屋共同組合長との交流をきっかけに、東京木材問屋協同組合が木材会館で展示していた木造のギャラリー（パビリオン）が再利用されている⁵。この木のギャラリーは、日建設計が建設した建物で、日建設計がギャラリーとして展示していた際に作ったソファなどの家具も活かされている。

アネックス館は木造だが、外観は雨・風に強いガルバリウム鋼板で仕上げられている。また、中庭に面したガラス張りの窓からは、敷地近くの水辺の景色を眺められ、利用者は景色を眺めて心を落ち着かせることもできる。必ずしも向かい合って座らなくても良い家具配置であること（一直線の配置やL字型の配置）が大切で、利用者はその日のコンディションにあわせて居方を選択できる。また、向かい合わない家具配置により、スタッフは利用者と視線の先を共有しながら利用者への寄り添い方を選択できる。

2) 本館とアネックス館の一体性

本館とアネックス館は設計者が異なるため、もともとは仕上げ方が統一されていなかった。建築環境担当の佐藤氏の知人である建築家の阿部勤氏が建築の総合監修として参加し、2棟のイメージを統合して全体の調和を図るデザインを行った。阿部氏は、庭と建物の一体性を表現した自邸「中

心のある家」や、海外で現地の材料を使用した学校の設計に取り組んだ経験もあることから佐藤氏がぜひにと依頼したもので、このマギーズ東京のプロジェクトでも2棟の特性を生かしつつ、制限もあるなかで柔軟に課題を解決しながら魅力的な空間が実現されている。

阿部氏の考えで、本館とアネックス館の間の中



写真 10.2 棟をつなぐ渡り廊下

阿部勤氏の提案により、渡り廊下には柱を均等な間隔で配置しており、設計者の異なる2棟に一体性をもたせている。



写真 11. 中庭

2棟とも、中庭に向かってガラス張りの大開口面を設けられており、館内から「適度に閉じた」外部空間を感じられる。

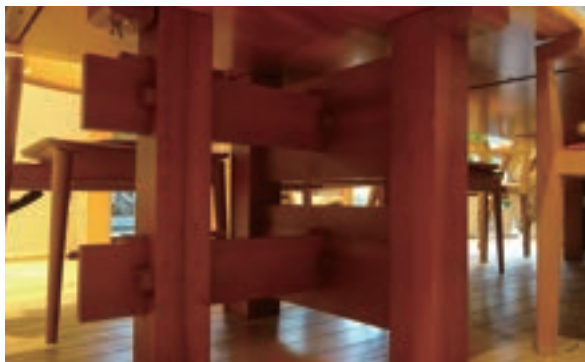


写真 12. 本館ダイニングのテーブルの脚

アメリカンチェリーの木材が楔でとめられているオリジナルの構造。存在感のあるテーブルは「集まりの場/場の共有」というシンボリックな意味合いをもつ。



写真 13. 本館リビングの照明

本館リビングの照明は、インダストリアルデザイナーの柳宗理氏が手掛けたもので、やわらかい光がリビングのテーブル周りを照らす。



写真 14. 本館エントランスから入館した景色

本館のエントランス部分の天井高は、高く設定し開放的に設え、間接照明を用い、来訪者を暖かく迎え入れる。

庭に渡り廊下を設え、木造のアネックス館に使用されている木の列柱を本館まで延長して、均等の間隔で配置し、2棟に一体感をもたせた。また、外観の一体感も重視し、アネックス館で使用されているガルバリウム鋼板のグレーの色を本館でも使用し、本館のフラットの屋根とアネックス館の傾斜のある屋根に統一感をもたせている。本館とアネックス館の向かい合う面は全面ガラス張りで、温暖な日本の気候を生かした縁側のような開放的な空間がつけられている。

3) 中庭

中庭は建物の前が「人々を迎え入れる庭」、2棟の間の渡り廊下の奥が「プライベートガーデン」と分かれている。基本的な植栽はデザインされたものだが、さらにボランティアの手によって樹木の足もとに季節の花が植え込まれるなど随時手が入れられている。

「安全な中庭があること」はマギーズセンターのデザインコードに一致するものであり、適度な空間の小ささや囲まれている感覚があり、守られた雰囲気の中かで外部空間に身を置けることや自然を感じられることが重視されている。



写真 15. アネックス館の中庭に向けた家具配置

家具が中庭に向けて配置されており、来訪者とスタッフは、自然を見て落ち着きながら対話できる。

■家具・インテリアについて

1) 本館家具・インテリア

オープンキッチンに置かれた存在感のあるテーブルは、寄贈された樹齢300年のアメリカンチェリーを天板として使用している。また、製作者である大工職人のオリジナルによる脚部にも同材を用いている。脚部は楔でとめる特徴的な構造で、オリジナルのユニークなテーブルは集まりの場の中心的存在となっている。

オープンキッチンのペンダントライトは、インダストリアルデザイナー・柳宗理氏のデザイン事務所から寄贈されたもので、大きなテーブル周りに温かい光を放っている。

奥の個室（写真25、26）は障子で仕切られており、2方向から開閉できる。また、障子を開け



写真18. クッション

利用者が自らが快適に過ごせる環境を整えられるよう、抱える・支える・敷くなどの使われ方に対応するため多様なサイズを取り揃えている。なかには、がん当事者の使用に配慮した、褥瘡を防ぐ医療用仕様のクッションもある。

また、クッションに使用されるカバーは来訪者の気持ちが少しでも晴れたり安らいだりできるような素材や色が選ばれている（写真はアネックス棟）。



写真16. アネックス館のインテリア

木の色をベースに部分的に「元気の出る色」を生花や、椅子、クッションなどで取り込んでいる。また、生花は「花畑活動」で育てたものを使用している。



写真19. アネックス館の水槽

マギーズの建築要件に「水槽がある」とあり、この水槽は、ギャラリーエークワットで開催された「マギーズの建築と庭展」の際、寄贈されたもの。



写真17. アネックス館の館内の設え

木の柱や梁の色をベースに、周りの化粧材やインテリアは、構造部より薄い色を使用している。内部は、木の香りが漂う、落ち着いた空間である。



写真20. アネックス館の暖炉

マギーズ東京では、電気式暖炉が採用されている。実際の火は使わないものの、炎の揺らぎやあたたかさを感じられるようになっている。

放つと2室を一体的に使用できる。こうした建具の使い方はマギーズセンター・ウェストロンドン（以前の本部所在地でもあるマギーズセンター、リチャード・ロジャース設計）などでも採用されている。

本館天井は、ベニヤ板の角を面取りして化粧材



写真 21. 本館事務室のブラインドと柱の色使い

本館の事務室ブラインドは、「ゲート」の役割があり、内装より濃い色を使用している。



写真 22. オープンキッチン

キッチンは自らお茶を淹れるなど、空間を主体的に使用するための行為を促す場として設えられている。(2021年4月当時は、新型コロナウイルスの感染防止のため、お茶のセルフサービスは行われていない。)



写真 23. 本館ダイニングで使用される椅子

本館ダイニングの大きなテーブル周りに配置された椅子は、2種類あり、利用者は、好きな椅子とクッションを組合せて座る。

として貼り付けており、面取りというひと手間を加えることで、ひとの手仕事を感じられる落ち着いた空間の醸成に寄与している。また、天井高は、エントランス部分を高く設定し開放的に設え、間接照明を用いて来訪者を温かく迎え入れている。一方、ダイニングの天井は、エントランス空間より低い住居レベルの高さに設定されており、安心感をもてる滞在空間として計画されている。

また、スタッフが来訪者の様子に気を配れるよう、事務室とダイニング空間は腰壁と棚で区画され、事務室から適度に視線が通るよう計画されている。一方で、事務仕事には個人情報を扱う作業なども含まれるため、事務室側にはブラインドが設えられており、完全に閉じないながらも、仕切られた空間として使用できるようになっている。ブラインドの色には「ゲート」の役割をもたせており、内装の色より濃い色を採用している。

このように、人や自然の温かみを感じられるよう、家具や設え、化粧材といった細かい部分にも気配りがなされている。

2) アネックス館家具・インテリア

アネックス館は、基本的に中庭に向けた家具配置である。ソファや机は、可動式でアネックス館をプログラムで利用する際、配置変更できる。また、日本人の骨格に合わせた座り心地の良いソファになっている。

各所に置いてあるクッションの中には、褥瘡予防素材のものもあり、床ずれしにくく、適度の硬さがある。また、クッション類は、アクセントカラーとなる明るい色の生地や、メイ・モリス氏が手掛けた生地のカバーで覆っており、利用者は、好みのクッションを選び自身が居心地よく過ごせるように滞在の場をつくれる。

マギーズセンターの建築条件に「暖炉や水槽がある」ことが示されている。マギーズ東京では水槽と電気式暖炉をアネックス館に設えている。

3) カラーコーディネート

カラーコーディネートは、木造の茶色をベースにしている。しかし、クッションや花などのインテリアには、沈静色である寒色や中間色だけな

く、暖色や気持ちが晴れるような色も取り入れている。なお、家具やインテリアの選定については、建築環境のスタッフが様々な提案をするが、最終的に佐藤氏が全体的なコーディネート観点から確認して選択し、設えている。

前述の本館事務室のブラインドと異なり、アネックス館で使用されるブラインドは、収納空間を隠す役割を併用しているため、木の柱より薄い色を採用し、目立たせない配慮をしている。このように、用途や役割に合わせ色の濃淡に変化をつけている。

■来訪者について

マギーズ東京では、「誰でも自由に訪問できる」をコンセプトにしているため、来訪者の居住地や症状を必要に応じて対話の中で聞くことはあるが、決まったフォーマットでのカルテ的な記録などは録っていない。また、COVID-19 以前は予約も不要としていた（2021年4月訪問時は、密度を調整する関係で事前連絡をお願いしていた）。利用者数は、年間約6000人で月約400～500人が来訪している。スタッフから見た来訪者の年代は幅広く、AYA世代（思春期・若年成人世代）のがんの当事者の来訪もある。来訪者の利用に至る経緯は様々で、周辺のがん拠点病院の診療の後に利用する方⁶や、がん拠点病院の相談窓口から勧められて来訪する方などがある。

英国発祥のマギーズセンターの流儀に倣い、来訪者は、自分でお茶を淹れることができる。この行為は、紅茶文化の根付いた英国では「自らがその場の主（あるじ）として主体的に振る舞う」ことの象徴でもある。このある種のセレモニーによって、利用者は「ここでの自分は客体ではなく主体」だと理解し、「ここは自分自身として存在できる空間である」と実感をもって認識する。（なお、訪問した2021年4月現在は、COVID-19の感染防止のため、お茶のセルフサービスは行われていない。）

■スタッフについて

1) スタッフ構成

スタッフに「がんサポートスペシャリスト」として心理士、看護師がおり、常勤5人、他に非常勤のスタッフが交代で出勤している。周辺のがん拠点病院からボランティアとして、マギーズ東京をサポートする看護師もおり、ナイトマギーズやオープンマギーズ、他の大きなチャリ



写真 24. 本館デッキスペース

来訪者の相談や、くつろぐ場として、自由に使用されている。



写真 25. 本館奥にある個室をリビング側から臨む

秘匿性の高い会話をする際や授乳などでも使用される。来訪者自身が1人になりたい際には写真26のように、障子を閉めて個室的に使用することもできる。



写真 26. 本館奥の個室の障子の戸を閉めた様子

本館奥の個室は、障子の戸で2方向から開閉できる。

イベントのサポートをしている。

また、スタッフは、全員「マギーズ流サポート研修」を受けており、病院とは異なる来訪者へのサポート方法を勉強している。他にも、月1回開催されるイギリスのマギーズセンター本部とのミーティングや各部門のリーダーズミーティング、勉強会を介して、サポートの質を高めている。



写真 27. 多目的なトイレ

マギーズセンターの建築要件に「1人で泣ける広めのトイレ」があり、マギーズ東京でも多目的に使用できるトイレが設置されている。



写真 28. 本館リビングのソファ

ソファの下には、収納が取り付けられており、スペースを有効活用している。



写真 29. 中庭の植物

中庭の植物はボランティアの方が手入れを行っている。低木と高木が交互に配置され、仕切り感と拡がりを感じられる。

る。1日の終わりには、その日に感じたことや気になったことなどについて、スタッフ同士で共有する時間をもっている（詳細は3）スタッフへのケアで述べるリフレクションを参照のこと）。

2) スタッフが行うこと

マギーズでは、支援の中心に「対話」を据えている。これは、来訪者や家族が自身の病や不安と向き合う対話でもあり、スタッフなど支援者との関係を構築しながら自身の納得に至るプロセスでもある。「対話」においては、がんの当事者が語る悩みや不安を聴く（傾聴）だけではなく、スタッフからの語りかけや双方向のやりとりが重視される。これはマギーズ流サポートにも取り入れられているナラティブ・メディシンの原理により、「語ることと聴くこと」から生まれる感情と間主観的關係（それぞれ異なる主観をもつ複数の主体における同意などの関係、しばしば、同意が成り立っている状態を指す）を重視する考え方による。

がんの当事者や家族など利用者が自ら悩みや不安を言語化して吐露することは簡単なことではなく、それゆえ環境を介してそれを支援する姿勢がマギーズ流である。

3) スタッフへのケア

病院や施設では、スタッフが悩みや、不安を抱えることが多いが、マギーズ東京では「リフレクション」という方法で、スタッフのメンタルケアを行っている。「リフレクション」では、1日の終わりにスタッフ全員が輪になり、花（トークン）を真ん中において、深呼吸をしながら、1日を振り返る。その後、心に浮かんだことや話したいことのあるスタッフは花を手にもち、自由に話す。1人が話している間、他のスタッフは傾聴する。次に話す人は、前の人の話した内容について意見を述べても良いが、自身のことを話しても良いという方法であり、これを順番に繰り返していく。この方法により、スタッフは気がかりとして心に残ったことや感じたことを正直に話すことで一日のおわりに、心に残った気がかりなこと⇔心理的な負荷の荷下ろしができる。病院の看護師としても働いているボランティアスタッフなどから

は、本務の職場でもこうした取り組みが必要であるという気づきの声も聞かれる。マギーズ東京は、利用者だけでなく、スタッフにとっても心を開いて働くことができる環境を作っている。また、ケアラーとしての学び合いの場にもなっている。

■空間の使い方

来訪者は、先述のようにここで過ごす際の滞在場所を、自ら選んでいる。来訪を続ける利用者(再来者)には、それぞれ好きな場所があり、マギーズ東京を訪れると自身の好きな場所で滞在する。対話をする際には、そのときの気持ちによって滞在の場所を選ぶ(秘匿性の高い相談などの場合には本館奥の個室を利用するなど)。他者とのつながりを希望する場合には、オープンキッチンの大きなテーブルや、アネックスのソファ&ローテーブルのスペースなどが適している。このように、来訪者は自主的に滞在場所を選択している。

秋山氏は、来訪者との「対話」の際に中庭の自然や水辺の景色を眺めるなどの「話す」以外の行

為が取り込まれることで、会話の間が不自然にならず、来訪者の感情の変化が読み取りやすいと言う。これは、対面する居方(来訪者とスタッフが相対する関係)ではなく対象物の共有による寄り添いの居方(来訪者とスタッフが並んで、同じものを見る)と言える。このため、アネックスには同席者が対面ではなく並んで座れ、川面のきらめきが見えるソファのスペースをつくっている。また本館奥のリビング的なソファスペースでは、



写真30. 敷地前の「マギーズガーデン」に咲く花

季節によって異なる花を、来訪者は楽しめる。また、花の成長を見て、命の息吹を感じられる。

◆マギー氏の思い

ランドスケープデザイナーであり、著述家でもあったマギー・K・ジェンクス氏は、47歳で患った乳がんが5年後に再発し、「余命数か月」と医師から告げられ、生きることへの希望を失っていた。しかし、彼女にはジョンとリリーという2人のこどもがおり、人生の重要な時期にあるこどもたちと、一緒にいる時間を少しでも延長することに価値があると考え、イギリスのエジンバラのウエスタン総合病院で、ロバート・レナード医師が行っている「転移性進行乳がんに対する臨床実験」に参加し、再度がんを闘うことを決めた。

また、がんを闘うと決意した際、マギー氏は、「恐怖の中でも、生活の中で、自分の治療に対して積極的な役割を担うことで気持ちがどれほど楽になれるか」に気づき、病気の当事者として、「能動的に治療に参加することが、病気に対処する最も重要なステップのひとつである。」ことを確信した。マギー氏は、死期が近づいても、毎日を能動的に生きていた。次に、マギー氏は闘病生活の際、多くのがんに関する情報を得た。しかし、症状が不安定ながんを抱える患者には、情報と信頼できるガイドの両方が必要なことに気づく。

マギー氏は、前述した自身の経験から良い医療を提供するだけでなく、精神的なストレスに対応する「がんセンター」の必要性を、夫であり建築評論家でもあったチャールズ・ジェンクス氏や、マギー氏のウエスタン総合病院の専門看護師ローラ・リー氏(現マギーズセンター

CEO)をはじめとする担当医療チームに主張し、計画は生まれた。

1995年2月にマギー氏は、エジンバラ在住の建築家リチャード・マーフィー氏に、ウエスタン総合病院の敷地内で行う柔軟な空間の設計を依頼した。しかし、1995年4月にマギー氏のがんの2度目の再発が分かり、5月にがんセンターの「青写真」を描いたが、マギー氏は、1995年7月8日に亡くなった⁹。

→「◆マギーズセンターについて」に続く。



写真31. マギーズエジンバラ (マギーズセンター HP から引用)

マギーズセンターとして最初に開設した。ウエスタン総合病院の敷地内に建てられた石造りの納屋を改修。来訪者を元気づけるような明るいインテリアが印象的。

キッチンと大テーブルなどに滞在する人々の雰囲気ガラス越しに感じながら、並んで滞在することもできる。他者との距離感の調整や選択を行いやすい設えがなされている。

■マギーズ流サポート

マギーズセンターの来訪者のサポート方法は、病院とは異なる。病院では、「がんの当事者が何をしたいか察してあげる人が良い看護師」とされ



写真 32. アネックス館で飾られる生花

「花畑活動」で育った花を摘み、館内に飾っている。季節によって異なる花が咲き、館内のカラーも徐々に変化する。

るが、マギーズセンターでは、来訪者の意思を尊重し、次の一步を自分で歩みだせるようにサポートすることが目標である。前マギーズ・エジンバラのセンター長（現：英国本部の導入・育成担当）のアンドリュー氏は、「まずは、1、2、3... と数えて、言v葉を飲み込みなさい。とにかくお話を聞くことがマギーズ流です。」と言及しており、マギーズセンターでは、特に“聞くこと”を大事にしている⁷⁾。

来訪者は、通院のタイミングなどで来訪曜日が固定化してくる方もおり、自然に同じスタッフが対応することになる場合も多い。また、必要そうなサポート内容によって、それが得意なスタッフとそれとなくバトンタッチするなど、お互いに目配りをしながら来訪者への応対にあたっている。

なお、2020年以降は COVID-19 への対応のため、電話やメール、オンラインでの相談も受け付けていた。

■運営・資金について

マギーズ東京を含むすべてのマギーズセンター

◆マギーズセンターについて

マギー氏の死後、計画は夫の建築家であるチャールズ・ジェンクス氏が遂行し、1996年にがんにかかわる全ての人が「第2の我が家」のように気軽に立ち寄り、自分の力を取り戻すことのできる第1号の「マギーズ・キャンサーケアリング・センター」をエジンバラに設立した。マギーズセンターは、現在も拠点を増やしているが、チャールズ氏は、マギーズセンターの発足から2019年に亡くなるまで、21年間取締役会に参加した。

マギーズセンターは、建築要件があり、要件に沿った設計を設計者に依頼している。一方でチャールズ氏は、条件を超えたデザインのアイデアが、建築家としての「創造性」であり、「創造性」が「がんに影響を受けた人たちに」希望をもたらすと考えている。

チャールズ氏の考えに優れた建築家たちが賛同していった。賛同者である黒川紀章氏やフランク・ゲーリー氏、ザハ・ハジド氏などの建築家は、ボランティアで「建築・環境」と「ヒューマンサポート」を重視した、「第2の我が家」に感じられる設計を行っている。

上記をはじめとする建築家たちが設計したマギーズセンターは、外観はユニークで、内観は落ち着いた設計をすることで、来訪者にとって最も困難な挑戦の一つに自ら向き合い対処できる場所である。

◆マギーズセンターの建築要件¹¹⁾

建築の設計は自由だが、方針は決まっている。マギーズの主たる建築要件は以下12項目である。

1. 温かみのあるエントランス
2. 自然光が入って明るい
3. 安全な(中)庭がある
4. 空間はオープンである
5. オープンキッチンである
6. カウンセリング用の個室がある
7. 12人が横になれるスペースがある
8. 暖炉や水槽がある
9. 一人で泣けるためのトイレがある
10. 建築面積は280m²程度
11. 建築デザインは自由である
12. 積極的に節約をする

[訳：佐藤由巳子氏¹¹⁾]

本来、マギーズセンターの建築要件には、「11. 建築デザインは自由である」と記載されていない。欧米では、建築デザインの自由は認知されており、建築家は自身の創造力を活かして設計を行っている佐藤氏は語る。佐藤氏は、条件をクリアすればマギーズセンターを設計できると考える日本の設計者に、要件を超えた建築家の「創造性」がマギーズの設計には求められることを示すため、日本版では「11. 建築デザインは自由である」の項目を追加した。

は、チャリティ（寄付や協力）により運営されている。マギーズセンターの本部があるイギリスでは、宗教観や制度の誘導もあってチャリティの文化が根付いており、積極的に寄付やボランティアといったチャリティ活動を行う人や機会が多い。しかし日本では、歴史的経緯や税制上の相違などにより、チャリティへの意識が浸透しているとは言いがたく、多額の寄付を長期間にわたって安定的に得られる状況はつくりにくい。そのため、マギーズ東京では寄附金等の経済面での支援に加えて、人々の労力や活動による支援を積極的に募っている。例えば、マギーズ東京の敷地前にある「マギーズガーデン」で行われる「花畑活動」は、多くのボランティアや地域住民が一体となって行われている。

また、相談や各種グループプログラムは、寄附金やプロボノなどによって開催されるため、参加費無料で利用できる。また、周年イベント等を通して活動するボランティアも多い。

現在も寄付金を募って運営を行っている。また、マギーズのファンを増やすためのグッズ販売なども行っている。

■花畑活動

花畑活動では、マギーズ東京の敷地前にある「マギーズガーデン」を使用し、「たねダンゴ」を植えている。「たねダンゴ」とは、肥料と土を団子状にまとめ、そこに数種類の植物の種を埋め込んで栽培する場所に埋める方法で、植物の栽培経験のない方も簡単に植物を育てることができる。

年	月	活動内容	
2017	10	・マギーズ東京1周年記念チャリティー講演会 ・マギーズ東京1周年記念フェスティバル ～HUG YOU ALL DAY 2017～	
2018	1	・NHK-Eテレ「ハートネットTV 2人の医師からの遺言」マギーズ東京で収録・放送	
	2	・日本がん看護学会（約4000人参加）の交流集会で、マギーズ東京セッション「がんとの共生を支える様々な場」開催	
	3	・東京都の「がんポータルサイト」に、マギーズ東京の情報が加わる ・グループプログラム「リラクゼーション」「食事や栄養のお話」「ストレスマネジメント」毎週開催スタート	
	4	・江東区の委託を受け、毎月第1金曜日18時～20時に「ナイトマギーズ」開始	
	5	・がんを経験した人、家族、友人、医療者など来訪者が延べ10000人を超える	
	6	・身近なイベントを開いて寄付を募るためのワークショップ「サポーティングマギーズ」スタート ・がん看護専門看護師によるグループプログラム「リンパ浮腫（むくみ）教室」トライアル開始	
	8	・厚労省「新たな医療の在り方を踏まえた医師・看護師などの働き方ビジョン検討会 報告書」にマギーズ東京が紹介される	
	10	・2周年記念オープンマギーズデーを、地域の合同イベント「SPORT×ART2018 新豊洲オータムフェス」（2日間延べ14000人参加）で開催 ・日本エンドオブライフケア学会（約500人参加）で、マギーズ東京がセミナーを主催 ・ドキュメンタリー映画「がんになる前に知っておくこと 医師と看護師、経験者との15の対話」に協力 ・試写会開催「がんになる前に知っておくこと」公式サイト	
	11	・グループプログラム「ノルディックウオーキング」開始 ・来訪者が延べ13000人を超える	
	2019	1	・グループプログラム「グリーンケア」開始
		2	・マギーズ東京 事業報告会開催
3		・東京文化会館大ホールにて、ベンジャミン・バイルマン ヴァイオリンコンサート「マギーズ東京チャリティーコンサート」開催。約1800名の方が来場	
8		・マギーズ東京オープン3周年記念上映映画「がんになる前に知っておくこと」～医師と看護師、経験者との15の対話～	
11		・がんを経験した人、家族、友人、医療者など来訪者が延べ18000人を超える ・マギーズ東京と考える「がんの仕事」フォーラム開催	
2020	3	・マギーズセンターの建築と庭展 - 本来の自分を取り戻す居場所 -	
	4	・いつでもどこでもできる・簡単リラクゼーションの動画を公開開始	
	6	・トークショー映像公開「庭と建築の心理的意味 マギーズ東京の活動から」	
	7	・マギーズ東京4周年記念オンライン感謝祭	

表1. マギーズ東京イベント活動実績(YAHOO! Japan 力を取り戻す居場所 「マギーズ東京」の継続運営のために！から引用)



写真 33. マギーズダンディー（マギーズセンター HP から引用）
波の打つ屋根とジェンクス氏がデザインした庭が特徴的。



写真 34. マギーズハイランド（マギーズセンター HP から引用）
緑色の銅板が渦巻くシンボリックな形。庭の2つの山は上ることができる。



写真 35. マギーズファイブ（マギーズセンター HP から引用）
ザハ・ハディド設計の黒い塊のような外観は、元炭鉱の街から連想した。



写真 36. マギーズウエストロンドン（マギーズセンター HP から引用）
チャリングクロス病院の敷地内でオレンジ色の高い外壁と浮遊するような屋根に囲まれている。

「たねダンゴ」を植える活動は、東日本大震災の際に、家庭園芸普及協会が被災地復興のために始まり、マギーズ東京でも取り入れている。年に2回、複数種類の花々の種が組み合わされた「たねダンゴ」を植えて、季節の移ろいとともに参加者が手入れを行う。たねダンゴは寄付によるが、マギーズ東京の趣旨に照らして、コントラストの効いた明るい色彩の植物が選ばれている。

このようにして「マギーズガーデン」には、様々な種類の種が植えられ、季節ごとに異なる花が咲く。また、参加者はマギーズ東京を訪れるたび、花の成長を見て楽しめるほか、咲いた花は摘んでもち帰ることもできる。

■マギーズ東京への寄付方法の一覧

マギーズ東京では2021年現在、以下の支援や寄付を募っている。

・マンスリーサポーターでの支援

マギーズ東京のマンスリーサポーターとして、毎月定額を寄付することで支援する仕組み。月1000円から登録できる。

・クレジットカード・銀行・郵便局での都度寄付 ・家庭や職場等で使用しなくなったものを使った寄付

不要になった本・DVD・CD・ゲーム・服やファッションアイテムをサポート業者に送り、寄付を行う仕組み

・Tポイント、Amazonのウィッシュリストからの寄付

Yahoo ネット募金・Amazon ウィッシュリストを通して募金を行う仕組み

・イベント、キャンペーンを通じた寄付

マギーズ東京にファンドレイズ登録し、イベントの収益や募金箱から寄付する方法。これまでに、音楽会や講演会・各種イベント収益からの寄付、アート展示会場での募金箱設置、映画上映会での寄付などが集まっている。

・寄付付き商品や書籍の購入



写真 37. マギーズチェルトナム (マギーズセンター HP から引用)
 両側から仕切られるキッチンエリアとリラクゼーションエリアに仕切られている。



写真 41. マギーズ香港 (TIOVIO HP から引用)
 設計者は、フランク・ゲリー氏。夜は水面に室内の灯りが映り、香港の夜景を思わす。



写真 38. マギーズスウォンジー (マギーズセンター HP から引用)
 設計者は黒川紀章氏。地中から腕を振り回しながら現れた宇宙の渦を表している。



写真 42. マギーズニューカッスル(マギーズセンター HP から引用)
 プランは、90 度に振られた 2 つのウイングからなり、片方はカウンセリングや、グループワークの部屋、もう片方は、キッチンスペースのみで構成されている。



写真 39. マギーズノッティンガム(マギーズセンター HP から引用)
 1 階は公的な空間で 2 階は、カウンセリングルームなどの個室で構成されている。



写真 43. マギーズニューアバディーン (マギーズセンター HP から引用)
 大きな白い石が横たわるオブジェのような外観をもち、設計者は、温かさ・安心感・保護される感覚を表現する。



写真 40. マギーズグラスゴー (マギーズセンター HP から引用)
 設計者はレム・コールハウス氏。部屋はつながっているが、それぞれ機能をもつような設計としている。



写真 44. マギーズオックスフォード (マギーズセンター HP から引用)
 設計者のコンセプトの「アートと科学に橋をかける」である。人工地盤のように 3 つのウイングを作っている。



写真 45. マギーズマージサイド(マギーズセンター HP から引用)
 ファイバーガラスパネルを使用した仮設のマギーズセンターである。



写真 46. マギーズラナークシャー(マギーズセンター HP から引用)
 2つの総合病院が並ぶ敷地の端にこの地方の独特の白色系の特性レンガに囲まれたコートハウスである。



写真 47. マギーズマンチェスター(マギーズセンター HP から引用)
 穏やかな緑地にあり、デザインは屋外にいるような雰囲気である。構造材は自然木でできている。



写真 48. マギーズフォースバレー(マギーズセンター HP から引用)
 木材を使った往年のボード小屋風である。幾何学的に規則正しい継ぎ目のない木材を張った傘状の計上で屋根と壁を共用させる。

マギーズ東京の発行物、またはオリジナルチャリティグッズを購入して支援する方法
 以上の様々な寄付により、運営されている。
 (2021. マギーズ東京 HP での情報)

■定期開催イベント

マギーズ東京では、これまでに多くの大きなイベント活動や研修を行ってきた(表 1)。定期的に行われているイベントを以下に整理する。

・マギーズ流サポート研修 入門編

医療機関や地域において、がんの当事者やその家族に対して相談支援に関わる方を対象に、マギーズ流のサポートを五感を使って学ぶ研修

・ナイトマギーズ(18時~20時)

江東区と品川区は、「がんの夜間相談窓口」をマギーズ東京に委託し、「ナイトマギーズ」として毎月、原則第1第3金曜日にオープンしている。仕事などで日中の時間に来院できない方に配慮している。

・オープンマギーズ

毎月、第4土曜日に開催している。がんに影響を受けている方だけでなく、マギーズ東京に興味をもった方が、参加できる見学会。

・花畑活動

毎月、第4土曜日の10時(12・1・2月は休止)に前述の花畑活動を行っている。

■プログラム一覧

以下のようなプログラムを実施している。リラクゼーション/ストレスマネジメント/食事と栄養/ノルディックウォーキング/メイクやウィッグ・頭皮ケア/男性同士のネットワーキング/グリーンケア/「これからのわたしのために(Where Now)」/リンパ浮腫や放射線の相談/ケアする人の時間。

グループプログラムは、テーマ別に分かれており、それぞれのプログラムでファシリテーターが対応している。ファシリテーターは、来訪者が自立して発言できるよう配慮している。互いの経験



写真 27. マギーズオールダム (マギーズセンター HP から引用)
世界初のユリノキの堅材の工業材で覆った建造物



写真 28. マギーズパーツ (マギーズセンター HP から引用)
ロンドンで最も古いセントバーソロミュー病院の中庭に隣接し、「容器の中の容器」をイメージして造られた。



写真 29. マギーズカーディフ (マギーズセンター HP から引用)
三角形の平面に対して 45 度の一連の傾斜した屋根は、家の東と地元の風景の両方のように見える、不均一で起伏のあるピッチのコレクションを提供する。



写真 30. マギーズリーズ (マギーズセンター HP から引用)
傾斜地に建てられた 3 つの大規模プランターのグループとして設計されており、それぞれがカウンセリングルームを囲んでいる。

をシェアし、自身の課題を見いだして、前に進めるようサポートをしている。

例えば、ある参加者が自身の経験や療法を他の方へ勧めるといった行為は、その他の参加者にとって安心・安全な場とはなりにくい。スタッフは、個人の体験として大切にしつつもそのような流れにならないよう、すべての来訪者へ安全なフィールドを提供するように配慮している。

また、イギリス本部と連携を取りながら、男性利用者が少ないことに着目し、マギーズ東京では「チャールズクラブ」という男性専用のグループプログラムで、男性同士が思いを共有する場を作った。このようにプログラムを日々見直し、改良を行っている¹⁰⁾。

以上、作成者:東京電機大学 原田豪、村川真紀、
山田あすか 2021.6.29
2023.12.16 修正

参考文献

- 1) HAKUHODO ポジティブな老後のつくり方 by QORC Vol.2 マギーズ東京 秋山正子さん / がんの支配から、自分を取り戻す空間, 発表日付 2017 年 10 月 18 日, <<https://www.hakuhodo.co.jp/magazine/41683/>>, 参照 2021 年 4 月 15 日
- 2) がんと生きるすべての人を応援します。 | がんサポート, 発行日付 2020 年 1 月, <https://gansupport.jp/article/patient_and_organization/patient01/13987.html>, 参照 2021 年 4 月 15 日
- 3) 三井不動産レジデンシャル株式会社 認定 NPO 法人 マギーズ東京と連携 「がんと仕事」をテーマとした従業員サポート体制を構築し、健康経営を推進, 発行日付 2020 年 9 月 1 日, <https://www.mfr.co.jp/company/news/2020/0901_01.html>, 参照 2021 年 4 月 15 日
- 4) SPORT × ART SHINTOYOSU 新豊洲の魅力, <<https://sportart.jp/interview01/>>, 参照 2021 年 6 月 30 日
- 5) コスモスモア, INTERVIEWS #7 マギーズ東京様, Maggie's Tokyo, <<https://www.cosmosmore.co.jp/project/interviews7/>>, 参照 2021 年 6 月 30 日
- 6) DIAMOND online がん患者の相談に予約なし、無料で対応「マギーズ東京」とは, 発行日付 2017 年 5 月 10 日, <<https://diamond.jp/articles/-/127266?page=3>>, 参照 2021 年 4 月 15 日
- 7) Precious.jp 「がん」を経験した人やその家族の「第二の家」でインタビュー がん経験者の心の拠り所、豊洲の「マギーズ東京」, <<https://precious.jp/articles/-/1680>>, 参照 2021 年 4 月 15 日
- 8) HUFFPOST, 発行日付 2016 年 10 月 12 日, <https://www.huffingtonpost.jp/hiroyuki-abe/cancer-maggiestokyo_b_12436342.html>, 参照 2021 年 4 月 15 日

- 9) 著者 Maggie Keswick Jencks, Marcia Blakenham, 垣添忠生,
「a view from the front line 最前線からの眺め」, 発行日付
2017年3月, 参照 2021年6月30日
- 10) KOKOCARA がんと生きる人たちを孤独にしない。一
緒に考え、寄り添う伴走者が集う場所、マギーズ東京の取
り組み, <[https://kokocara.pal-system.co.jp/2019/10/21/
maggiestokyo-cancer/](https://kokocara.pal-system.co.jp/2019/10/21/maggiestokyo-cancer/)>, 参照 2021年4月15日
- 11) MAGGIE's CENTERS ARCHITECTURE マギーズセンター
の建築と庭 ー本来の自分を取り戻す居場所ー, (編集) 公
益財団ギャラリーエークウッド, 参照 2021年6月30日
- 12) Google map, 地図データ 2021年,
<<https://www.google.com/maps>>, 参照 2021年6月30
日
- 13) YAHOO!Japan がん患者とその家族・友人が自分の力
を取り戻す居場所 「マギーズ東京」の継続運営のために!,
発行日付 2015年5月29日, <[https://donation.yahoo.
co.jp/detail/5034001](https://donation.yahoo.co.jp/detail/5034001)>, 参照 2021年4月15日
- 14) マギーズ東京 HP, <<https://maggiestokyo.org>>, 参照
2021年6月30日
- 15) 英国マギーズセンター HP, <[https://www.maggies.
org](https://www.maggies.org)>, 参照 2021年6月30日